

5 その他問題となった病害虫

(1) 水稻のコブノメイガ

〈発生経過〉

初飛来は平年よりやや早く、5月5半旬から飛来した。その後、6月4～6半旬に連続的なやや多い飛来があったが、7月以降の飛来は少なかった。第1世代の発蛾期は8月1～4半旬と幅広く、発生量も平年より多かった(図)。

〈問題となった点〉

防除は第2世代幼虫のふ化揃い期に合わせて行ったが、だらだらとした発生であったため、1回防除では効果が上がりやすく、また防除が適期に行われなかった圃場では食害葉が目立った。本年は止葉が食害された圃場も見られた。

〈発生原因〉

6月4～6半旬の飛来はピークが判然とせず連続的で、飛来世代成虫及び第1世代幼虫を対象とした防除はほとんど行われなかった。また7月の気温が低かったため、コブノメイガの生育が遅れ、平年値をもとに予測した一斉防除の時期が適期とならなかった地域があった。

6月以降、平年より日照時間が少なく、イネがやや軟弱に生育した。

〈対応内容〉

県予察圃場、巡回調査における発生調査、蛍光灯採集箱による調査を実施し、また有効積算温度によるコブノメイガの発生予測を行って、防除対策資料を作成し、発生予察情報、防除情報等を提供し指導した。また地域における対策会議等で情報を提供し指導した。

〈今後の課題〉

地域、作型を加味したよりきめの細かい情報の提供、指導を行う。

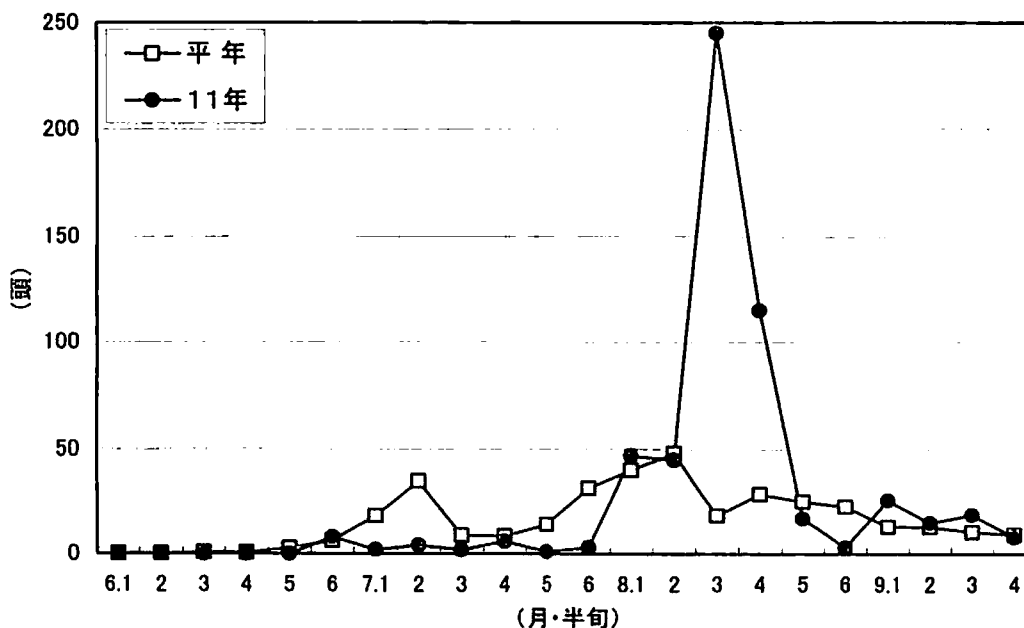


図 蛍光灯採集箱(諫早市)におけるコブノメイガの採集状況

(2) トマト黄化葉巻病

<発生経過>

1. 発生の確認

平成8年10月に大村市の施設トマトの診断依頼があり、症状及び発生状況から黄化萎縮病と考えられたため、農林水産省九州農業試験場に診断を依頼した結果、平成8年11月1日にPCR法による遺伝子診断で黄化萎縮病(TLCV)と類似のウイルスと診断された。

その後、平成10年8月に本邦未発生のTYLCV(黄化葉巻病)であることが確認された。

2. 平成8～10年の発生状況

平成8、9年は大村市のみの発生であったが、平成10年は急激に拡大し、新たに4市町で発生を確認した。発生は定植期の早い時期(8月定植)に多く、遅くなるにつれ少なくなった。

3. 平成11年の発生状況

森山町等のミニトマトで8月中旬から発生し、地区により多発した。その後、大玉、ミニ、ミディトマトで発生を確認するも前年より程度は軽かった。なお、新たに6市町で発生を確認した。

<問題となった点>

1. 初発地では、生産者の本病に対する意識が低く、育苗期～定植直後の防除対策が不十分であった。
2. 経営上有利な8月定植の栽培で発生が多い。
3. 発病した株でも、発病前に結実した果実は正常に生育するため、発病株の抜き取り処分が遅れた。
4. シルバーリーフコナジラミ侵入防止のための防虫網(1mm目)の設置が夏季高温のため困難であった。

<発生原因>

1. 平成8年初発時の発生経路が不明。
2. 近年の多発による感染植物の増加。
3. 初発地では本病に対する防除意識が低い。
4. 耕種的防除及び薬剤防除の不徹底。

<対応内容>

発生調査及び防除対策の指導(残さの処分、育苗期、定植直後のシルバーリーフコナジラミの侵入防止対策、有効薬剤による防除、発病株の早期処分等)

<今後の課題>

1. TYLCVの作物や雑草における感染状況
2. シルバーリーフコナジラミでの経卵伝染の有無
3. シルバーリーフコナジラミの防除体系の確立
4. 感染株の簡易判別法の確立

表 長崎県内の発生状況

年度	発生市町
8	大村市
10	佐世保市、琴海町、川棚町、国見町
11	諫早市、島原市、森山町、有家町 西海町、大島町

(3) かんきつのカメムシ類

<発生経過>

誘殺灯（諫早市）における誘殺量は、7月下旬までは平年より少なく推移していたが、8月上旬頃から増加し、さらに9月上旬から急増し平年より多い発生となった。極早生温州での被害は9月上旬から見られ、早生温州、普通温州でも被害が見られた。誘殺量は10月中旬以降減少した。

<問題となった点>

地域や園によって飛来量が大きく異なり、飛来の予測が難しかった

<発生原因>

餌、増殖源となるヒノキのきゅう果の着生量が多かった

<対応内容>

防除情報（極早生温州対象 9月3日）、注意報（極早生温州対象 9月16日）、注意報（温州みかん対象 10月15日）による指導

<今後の課題>

1. 残効が長く、ミカンハダニのリサージェンスの少ない有効薬剤の登録
2. 生態に応じた的確な発生予測技術の開発

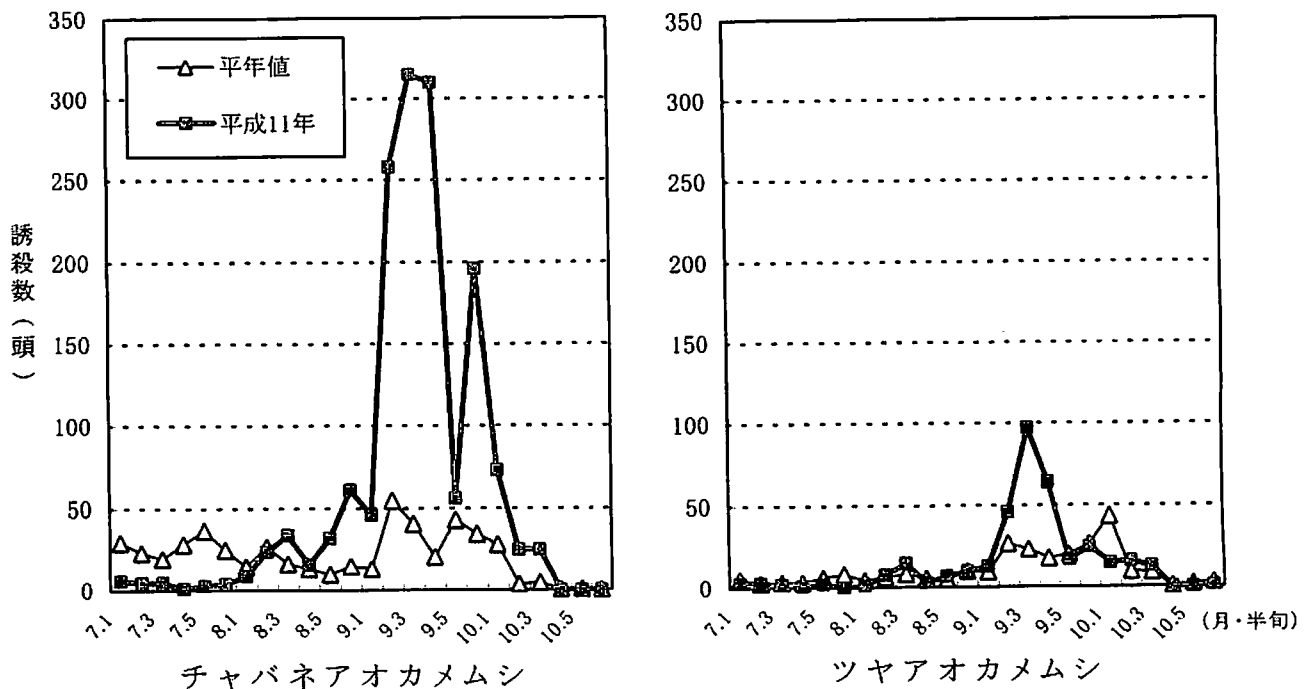


図 カメムシ類の誘殺状況（諫早市）

* 平年値は昭和63年～平成10年の平均、ただし平成8年の多発年を除く

(4) トルコギキョウ葉巻病（仮称）

1999年(平成11年)9月および11月にトルコギキョウに萎縮症状および葉巻症状を示す生育異常株が発生した。

同定の結果、TYLCVが検出され、我が国では未記録の病害であることが確認されたため、下記のとおり特殊報を発表した。

平成11年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成11年12月8日

トルコギキョウ葉巻病（仮称）の発生

1. 発生作物 トルコギキョウ
2. 病原ウイルス TYLCV (*Tomato yellow leaf curl virus*)
3. 発生場所 大村市、西彼杵郡琴海町
4. 発生状況及び発生確認
平成11年9月に琴海町、11月に大村市のトルコギキョウにおいて萎縮症状および葉巻症状を呈する生育異常株が発生した。
農林水産省九州農業試験場および本県総合農林試験場による同定の結果、TYLCVが検出され、我が国では未記録の病害、トルコギキョウ葉巻病（仮称）であることが確認された。
本病の病原ウイルスは、本県において既に発生しているトマト黄化葉巻病の病原ウイルスと同一である。
5. 病 徴
発病株は、節間が縮み、萎縮する。葉は葉表側に巻き、小型化する。また、葉脈の隆起や、まれに葉脈間がわずかに黄化する場合がある。以上の症状により商品価値が著しく低下する。
6. 伝染方法
シルバーリーフコナジラミにより伝搬され、アブラムシ伝搬はしない。汁液伝染、種子伝染、土壌伝染はしない。経卵伝染については不明である。
7. 防除対策
 - 1) 収穫終了後の残渣、圃場周辺の雑草はシルバーリーフコナジラミの発生源となり、病原ウイルスの伝染源となる可能性があるため除去する。
 - 2) 本病又はトマト黄化葉巻病発生地では、感染する可能性がある農作物への感染拡大に注意する。
 - 3) 発病株は本病の伝染源となるので、見つけ次第抜き取り、埋没または焼却処分する。
 - 4) 施設開口部に1 mm 目の防虫網を張り、シルバーリーフコナジラミの侵入を防止する。
8. TYLCVが感染する可能性のある植物
ナス科：トマト、タバコ、チョウセンアサガオ、オオセンナリ、イヌホウズキ
リンドウ科：トルコギキョウ
マメ科：インゲン、ヒラマメ
キク科：ノゲシ、ヒャクニチソウ
アオイ科：ウサギアオイ
トウダイクサ科：ショウジョウソウ